

文屋 慶子

Keiko Bunya

学校教育教員養成課程 音楽教育専攻
平成22年3月 卒業



ボランティアの時間を有効に

私は、仙台市立立町小学校で約2年間(1年目は特別支援、2年目は2年生で)にここにボランティアをしました。週1回しか行かないのに、「けいこ先生!と、親しく接してくれる子どもたちがとてもとおしく、「勉強したい」という気持ちより、「あの子たちに会いたい」という気持ちの方が大半を占めていたように思います。

私が、指導する立場になって思うことは、もっと多くの授業を見ておきたかったということです。教育実習でも先生方の授業を見せて頂きましたが、どんな視点で授業を参観して良いのか分かった頃には終わってしまっていました。

しかし、ボランティアは目の前でベテランの先生が授業をなさっていて、良い所を自分のものにする絶好の機会となります。教室の掲示やコメントの入れ方、どんな発問や声掛けをしているか、教室でどんなルー



ルを作っているか…など、自分の指導に生かせるものが山ほどあると思います。また、子どもたちの前では大変な部分は見せないことも、大切なことの一つです。先生が堂々としているだけで、子どもはとても安心することができます。学校の授業では、なかなか現場を見に行くことは出来ません。だから、ボランティアを通して現場を見て欲しいです。その時は気付かなくても、後になって気付くことがたくさんあり、やがて自分の財産となるでしょう。

毎日が嵐のように過ぎている私ですが、先生という仕事にやりがいを感じています。プロとして責任を持てるよう、失敗にめげず一歩ずつ進歩していこうと思います。

